
本気

hurin

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本気

【Nコード】

N1273R

【作者名】

hurin

【あらすじ】

これは少し前に私が実際に体験したことを記したものです。
私が本気を出せるようになったときの話。

（前書き）

こんな風な時があつた。

私は本気になった事が無かった。正確にはなれなかった。それなりの努力はしていたと思う。だが本気で頑張ってやり遂げたことはない。

誰かを本気で思ったことも無い。家族だ友人だとは思っていても何処か常に他人だという感覚が心の底にはあった。

部活を頑張れば、恋人を作れば本気が見つかるのかと考え、行動したこともあったが結局本気になれたとは思えなかった。

高校3年の夏のことだった。部活も引退し勉強に集中しようとしていたが、やはり私は本気になり切れず中途半端な成績だった。そんな時祖父が死んだ。心筋梗塞だった。

祖父の遺体を通夜で見たとき、私は何も感じなかった。やはり本気で家族だとは感じられず、ただ遺体とは綺麗なものののだな、という可笑しい感想しか持たなかった。度々暮を打った仲だというのに。

その年、私は受験に失敗した。

次の年の秋、私は浪人生として過ごしていた。

やはりだらだらと勉強し、前年度よりは成績は良いものの親に見栄を張って言った目標校には届いていなかった。

そんな折、我が家の犬がリンパ腫を患った。

獣医には抗がん剤が効かなければ長くは持たないと言われた。

抗がん剤治療2日目、私の両親は共働きでこの日は都合が悪いため、時間に融通がきく私が入院している犬の様子を見に行った。私は特に犬に家族の情などは感じていなかった。

獣医にゲージまで案内されたが、我が家の犬は弱って寝ていたため、特に刺激をせずにしばらく眺め、やがて飽きて背を向けた。そのとき背後で何かが動く音がした、我が家の犬だろうことは想像がついたが、私は無視して帰るつもりだった。

そのとき我が家の犬が吠えた。私の背に電流が走った。いつもの媚びるような声じゃない、命の声。私が振り向くと、我が家の犬はこちらを充血した目で見て、尻尾を盛大に振り、胃液を垂れこぼしながら盛大に吠えまくった。

苦しい！生きたい！嬉しい！家族だ！来てくれた！！

その声は、姿は、私が今までに感じたことの無いものを、猛烈に叩き込んだ。

死への恐怖。生への執着。家族への信頼。歓喜。慟哭。どれもこれも本気の感情なのだと私には理解できた。いや、理解させられた。

そのとき私の心に力チリ、と何かが嵌まったような気がした。それが何かは自分でも未だ解からない。

だがその時から私は本気というものを知り、習得した。

その後、我が家の犬は死んだ。

私は目標校に合格した。

（後書き）

わけの分らないものを書いてすみません。
ですがこれは私が本当に感じたことなのです。

よろしければ感想をお願いします。説教でも励ましても何でも構いません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1273r/>

本気

2011年10月6日16時30分発行